

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473001053
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所
事業所名	グループホーム すみれの家
訪問調査日	平成 19 年 9 月 26 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 6 日
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	1473001053
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	神奈川県大和市深見台 1丁目 10 - 15 (電話) 046-200-1065

評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡 4 - 2 県社会福祉会館内		
訪問調査日	平成 19年 9月 26日	評価確定日	平成19年11月 6日

【情報提供票より】(平成 19年 7月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 6 人, 非常勤 18 人, 常勤換算	12.1

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	124,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84 歳	最低	67 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若葉クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>大和駅より徒歩15分、住宅地の閑静な一角にあり、周囲には畑や公園等がある。グループホームの建物の中央には、吹き抜けの坪庭があり、四季の光が沢山入る空間となっている。全体的に居心地よく過ごせるように工夫されている。</p> <p>法人が経営する複数の事業所による連絡会等を通じて、相互の介護上のノウハウや情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。</p> <p>職員は、理念を念頭に置き、「受容」を大切にして、利用者一人ひとりに合ったサービスを目指し、取り組んでいる。</p>

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果は全職員に回覧し、指摘事項については医師の指導を仰ぎ、水分摂取量の把握、栄養の偏りに留意し、外気浴、朝の散歩等を取り入れるなどの改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者より、職員に評価の意義について説明し、全職員で取り組み、最終的に管理者がまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は5回開催している。会議内容については、ホームの現況や課題の説明をし、関係者からは各種の情報提供や提案等を受けている。例として、地域との災害時の協力体制について提案をもらっている。会議内容を記録し、ホームの様々な活動に活かすように取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者個々の連絡ノートで、家庭とホームとの連絡を双方向で行う仕組みを作っている。来訪の折や運営推進会議時、ご意見箱等の様々な方法で意見や苦情等をオープンに出してもらおうように努めている。家族から意見や要望等が寄せられた際には、些細なことでも受け止めて改善に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して夏祭りや盆踊りに参加し、地域の祭礼には神輿の立ち寄りもあり、近隣の幼稚園の遊戯会に招待される等の交流をはかっている。また、腹話術、日本舞踊、ジャズ演奏、フラダンス等のボランティアの定期訪問もある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会の中で、利用者の人格を尊重し、家庭に近い生活を送れる事を重視した理念を掲げ、全職員がそのことを共有し日々のケアの実践に努めている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念をケアに具体的に反映させるために、新人研修、朝礼や夕方の打ち合わせ、さらにはケアカンファレンス等において、職員相互に確認し共有することにより、理念に沿った介護を目指している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧のやり取り、夏祭りや盆踊りへの参加、そして地域の祭礼には御神輿の立ち寄りもある。また、近隣の幼稚園の遊戯会に招待される等、地域の人々との交流を深めている。更に、ボランティア活動の受け入れを積極的に行い、腹話術、日本舞踊、ピアノ演奏、フラダンス、写真家の立ち寄りなど様々である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について、管理者は意識作りの機会と捉え、職員に説明している。前回の外部評価結果は全職員に回覧し、指摘事項については医師の指導を仰ぎ、水分摂取量の把握、栄養の偏りに留意し、外気浴、朝の散歩等を取り入れることにより改善に取り組んでいる。なお、外部評価結果を玄関内に掲示している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は5回開催し、会議はホーム側から現況や課題について説明し、参加者から各種の情報や地域との交流等について意見をもらい、サービスの質の向上に活かしている。事前に全家族に開催を案内し、毎回5～6名の出席がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に定期的に入居状況を報告すると共に、市の担当者と困難事例やその他の相談、様々な情報の提供を受ける等の連携を図り、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回金銭収支について領収書を添付して会計報告するとともに、「すみれ便り」を送付し、生活状況を知らせている。また、利用者個々に連絡ノートを準備し、家庭とホームとの双方向での連絡に活用している。なお、緊急時には電話で連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情等の取り扱いについては、利用契約書や重要事項説明書に明記している。意見、苦情等については、来訪の折や運営推進会議、連絡ノートへの記入、「ご意見箱」への投函等の様々な方法で、受け入れるようにしている。意見、苦情等が寄せられた時には、正面より受け止め運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職する場合は通常1ヶ月前に申出る決まりとしている。その1ヶ月の間に新規採用者を決定し、双方の職員の勤務が重複するようにして、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者には、先ずホームや利用者の実態やケア全般を正確に知ってもらうように指導している。外部研修では認知症基本講座に8名、一般研修には管理者を含めた3名が延17回参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム9施設によって毎月開催するホーム長会議で事例研修の勉強会や職員の交換研修等を行っている。また、市内グループホーム連絡会への参加等でネットワーク作りに努め、職員のスキルアップを図ることによりサービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に先立って、管理者と関係ユニットの職員が利用者の家庭や病院等に出向き、本人や家族と十分に話し合い、馴染みの関係を作るように工夫している。また、本人に訪問してもらいホームの雰囲気を知ってもらうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、食材の準備や下ごしらえや針仕事等の得意な利用者から教えを受けたり、関東大震災などの体験談を伺ったりして、人生の師として尊敬をもって接している。また、一方では暑い最中、大量の買い物を下げて来た職員に「暑かったでしょう」と利用者からねぎらいがあったり、双方向で支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者は何でも分かっているという前提で一人ひとりに接している。本人の気持ちを理解するために一対一でかかわる時間を作って「受容」を大切にし、「何がしたいか」を把握するようにしている。利用者からの要望を受けて、職員と共に買い物に出掛けることもある。食べたいもの等の希望には出来るだけ叶えられるように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、個人別に「できること・できないことシート」を基に、ケアの現状を把握したケース記録と共に、家族と相談の上、短期(3ヶ月)、長期(6ヶ月)の施設サービス計画表を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎朝の朝礼やカンファレンスにおいて、利用者の変化を把握し、職員間で共有することに努めている。変化が生じた時には、早急に家族に報告し、本人・家族と介護計画の見直しについて話し合い、家族の要望を反映して介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関や法人の看護師と24時間の連携体制をとっている。ケースによっては、家族の要望に応じて他の施設を紹介したり、近隣の施設の情報収集する等可能な限り希望に沿うようにしている。また、家族の都合で通院付き添いがどうしても無理な場合に、職員が付き添うなど柔軟に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、入居前からのかかりつけ医に継続して診てもらっている利用者は4名ある。また、協力医療機関の内科医・精神科医は各月2回、歯科医は月4回、それぞれの往診がある。緊急時には電話による指示等の対応で、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、事業所より重度化した場合や終末期のあり方について説明すると共に、病状に合わせて特別養護老人ホーム等への入所申し込みを薦めている。現在、かかりつけの医師の診療を受けながら入居している利用者もあり、全職員で共有してケアサービスに努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「おじいちゃん」、「おばあちゃん」を禁句とし、利用者への声掛けや対応については朝礼等で、常に確認している。訪問時に、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉遣いは見受けられなかった。また、個人名入りの記録書類は事務室の施錠できるデスクに保管している。なお、入居の際には個人情報保護に関する契約を交わしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているが、4時頃から起きてテレビを見ている人、ゆっくり7時頃起きて来る人と様々である。また、外出、買い物、食事の好み、過ごし方等々利用者の希望を聞くようにしている。訪問時に、利用者が昼食前に散歩に出掛ける光景もあった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせて、食材の内容、準備や片付け等への利用者の参加状況も異なっている。1、2階いずれのユニットも、職員は利用者と一緒に懐メロのバックミュージックを聞きながら和やかに食事を楽しんでいる。誕生会には、利用者本人が外食、出前、自分たちで作る等を選択し、メニューを決めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週2回であるが、シャワー浴は、希望があれば何時でも可能である。入浴が嫌いな人には、電話で家族からの声掛けを頼んだり、入浴剤、タオル、着換え等好みの物を用意して工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に、過去の生活歴や趣味等について、本人や家族からの聞き取り、日々の生活に活かすようにしている。針仕事の上手な人には、繕いをお願いしたり、書・絵等で得意分野を活かした役割を担ってもらい、利用者が楽しみを見出し、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	訪問時に、ホームの近くの公園で、利用者が職員と連れ立ってベンチに座り会話を弾ませており、天気の良い日は利用者の希望に沿って外出している。時には少し遠方の泉の森公園、引地台公園等へ出掛けて、車椅子使用の利用者も一緒に遠出をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には日中、鍵を掛けないケアを実施している。ユニットの玄関には危険防止のためチャイムセンサーを付けている。また、職員の見守りと共に、最寄の交番にはホームのことを伝え、事故防止に努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルや連絡網を整備し、全職員に周知し、消防計画に基づき、防災訓練を行っている。また、運営推進会議の折、自治会に協力を要請する等の体制を整えている。水、非常食類も備蓄し、救命講習会に職員が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、法人の栄養士より月1回の指導・助言を受け、基本的には1日のカロリーを1,500kcalに決めている。また、栄養のバランス、水分量、食事量の記録は職員の日課とし、利用者個々の情報を共有し状況に合わせた支援をしている。利用者によっては、主治医からの指導もあり、より食事内容について配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中央部には、ガラス張りの吹き抜けの坪庭があり、四方の窓枠も大きく採られ、換気や採光に優れ、四季の光が沢山入る空間となっている。そして見守りながらの調理が可能な台所、食堂の奥には段差のない畳の居間が続いている。全体的に明るく、窓から緑も見え、居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベット、整理ダンス、机、椅子、仏壇、家族の写真等の馴染みのものや大切なものが持ち込まれている。また、ベランダには色とりどりの花が咲いた植木鉢が置かれ、利用者が、居心地良く過ごせるよう配慮されている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム すみれの家
(ユニット名)	つくしんぼ
所在地 (県・市町村名)	大和市深見台 1 - 10 - 15
記入者名 (管理者)	山内 史美
記入日	平成 19年 7月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフには運営理念の意義・役割を深く理解した介護の実践を行えるように、新人研修や日常の会議や朝礼などでも話し合い、共有している	これまで以上に入居者様それぞれの家庭とは？、その人らしさとは？を考え、話し合いながら、介護を実践していきます
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議により、入居者ご家族、地域自治会員、地域包括支援センター相談員、民生委員、市の職員などと話し合いをし、理解を深めている	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	門扉をつけず、自由に敷地内に入れるようにしており、散歩の際もご近所の方と挨拶を交わすなど、顔なじみの方も増えている	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会員として、広報を配布していただいたり、自治会主催の盆踊りなどの行事にも参加させていただいています	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	勤務中にはもちろん、勤務外でも高齢者の方がお困りの様子のときには積極的にお声掛けをし、援助することを心掛けている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価・外部評価は、自分たちがより良い介護を行うための意識作りであり、評価結果について考え、実践していくためのものであることを職員が理解している		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	ホームとして、介護者として悩んでいることや、困っていることを議題とし、皆様の意見や知識をいただき、日々の運営に役立てている		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	困ったことやわからない事などは大和市職員に相談をし、また、入居状況などの把握もしていただいている		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	入居者やご家族からの相談を受け、必要に応じて地域包括支援センターや社会福祉協議会などのパイプとなれるように努めている		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	外部研修をもとに、虐待とは？ どういうことが虐待か？などを考え、また、虐待のない介護を実践していくためにはどうすればよいかを話し合っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書を読み合わせ、不明な点は質問を受け、納得が得られてから契約を行っている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情申し立て機関を掲載して、ご意見をいただけるようにし、ご意見や苦情があったときにはどうするべきかを考え、その後の介護に生かすようにしている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、近況を伝える手紙と出納帳を送付したり、すみれ便りを発行し活動内容を報告している</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情申し立て機関を掲載して、ご意見をいただけるようにし、ご意見や苦情があったときにはどうするべきかを考え、その後の介護に生かすようにしている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼やカンファレンス等で意見を述べる機会をつくり、運営者への報告と回答を受け、スタッフに伝えている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>認知症が悪化したために見守りや介助に人手が必要であるときなどに、勤務者を増やすなどの対応をするために職員の協力を得ている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が離職の際は、新しい職員の入職と退職の時期をずらすなどし、入居者に急激な変化によるストレスのないように気をつけている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人のグループホームにおいての研修や新人研修、スキルアップのための研修などは、情報を公開し、勤務の調整なども行い、受講を勧めている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人下にある他市のグループホームの管理者との月1回の連絡会があり、事例検討などの勉強会や職員の交換研修なども行っている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	朝礼やカンファレンス等で自由に意見を述べる機会をつくったり、レクレーションを行う際には、入居者はもちろん、職員も楽しめるものを行うように皆で工夫している		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ホームの情報や問題点を把握し、適切な指導・助言をしており、また、研修などの参加を奨励している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決める際に、これまでの生活歴を記載していただいた用紙をもとにご本人の希望や不安をお聞きするようにし、出来る限りご希望をかなえられる様にしている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望された時から、ご家族の要望や不安について話し合いを持ち、入居後も情報をお伝えし、相談しながら対応策を決めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報や入居後の新しい情報について、スタッフと共有し、常に話し合い、対応している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が面談に出向き、その後、ホームにお出でいただき、ホームの雰囲気を感じていただきながら、顔見知りの程度でも馴染みの関係を作れるようにしてから、入居していただくようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度や片付け、掃除など出来ることを一緒にやっていたり、昔話を聞いて歴史を学ばせていただくなど、人生の師としての尊敬をいつも感じている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の変化については、体調や心の変化など、良いことも悪いことも、ご家族にお伝えするとともに、対応についても相談し、決定するようにしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者との毎日の会話の中で、その時の寂しさや、ご家族に会いたい、帰りたい気持ちを察知して、ご家族にお伝えし、協力をお願いしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊に制限を設けず、いつでも馴染みの方が尋ねて来られるようにしている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自立している方が、介護を必要とされている方の食事の準備や片付けの手伝いをしたり、レクレーションも出来る方が出来ない方の援助をされている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、可能であれば、ご家族やご本人とお会いしたり、施設の担当者に近況をお聞きしている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と入居者が1対1で関わることで、今何がしたいのか？悩んでいるのはどんなことかなどを傾聴する時間を作り、問題点について話し合い、解決できるようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や入居後の新しい情報について、スタッフと共有し、常に話し合い、対応している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	活動的な方とそうでない方など、一人一人が違う一人であることを常に頭で考え、個々の個性を大切にしながら、支援している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画の作成にあたっては、ご本人にお話を聞いたうえで、ご家族とスタッフと相談しながら、いろいろな視点で方向性を考えて作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝の朝礼やカンファレンスにおいて、入居者の変化を把握し、早急にご家族に報告するとともに、計画の見直しを話し合っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的な項目と特別な出来事の項目を分け、変化を把握しやすくし、特に注意する事柄は、特記事項に記載することで、問題点を見つけ、早急な対応を出来るようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームにおいて、生活が難しくなった方や、他施設への移動の希望があった時には、同法人化にある施設を紹介したり、近隣の施設の情報を収集したりして、可能な限り、ご希望に添えるように支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回程度の行事ごとにボランティアの参加があり、警察・消防にも情報を提供している		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居後も担当であった居宅ケアマネと連絡をとり、入居前の情報をお聞きするなど、協力をいただいている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者の抱えている問題がホームで対応できないような事例である場合などは、地域包括支援センターに相談することとしている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診はもちろんのこと、緊急時には早急な診察や、電話による指示による対応など、入居者を理解した関係を築いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回同法人下の精神科医による往診を受け、認知症による個々の問題点や心の変化について相談し、必要に応じた治療を受けられる		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の体調変化については、ホームドクターのクリニックの看護師との連携と、法人内の訪問看護師とも24時間の連携を結んでいる		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時には、早急に担当医師と連絡を取り、説明を受け、体調変化があるときには、その都度、退院や治療の説明を受けるなど、連携を持つようになっている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の説明の際に、重度化し共同生活が出来なくなった時の対応についての話し合いをしている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時及び認知症の進行状況や体調変化の現れた時には、その都度、ご家族や担当医師に報告し、話し合いをするようになっている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	個人情報であるため、ご本人とご家族の求めがあるときは、転居先に対し細かい情報をお伝えするようになっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録は記載時意外は事務所に保管し、声かけや対応については朝礼などで常時気をつける点として、職員に意識付けしている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>傾聴を基本とし、1対1の話し合いの出来る時間を可能な限りつくり、入居者のニーズに応えられるように支援している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務優先になりがちな時には、外出や散歩など…まずは入居者とコミュニケーションをもつ時間を優先することで職員の忘れがちなことを思い出す機会を作っている</p>	<p>朝礼後、まず散歩から… 散歩して朝の空気に触れることで入居者も職員もリフレッシュして1日元気に過しています</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容師が2ヶ月に1回訪問して一人一人の要望に応えた整髪をしてきており、また、別にお気に入りの美容院や理容室のある方はそちらで整髪できるように支援している</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>もやしの芽とり、さやえんどうの鞘取りなど、出来る方にはお手伝いをお願いし、片付け上手な方には片づけをなどと自然に役割ができています</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好については個人の好みを重視し、甘いものが苦手な方、好きな方など、職員が把握し、対応している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録により排泄パターンを把握し、排泄を出来る限り、トイレで出来るように支援し、ご本人にもトイレですることの気持ち良さを認識していただけるように支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声掛けの際に、辞退された方には決して無理強いをしないようにし、翌日改めて声掛けをしている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の過したい場所でゆっくりすごしていただくようにし、必要以上に居室を覗いたり、むやみに声掛けをしないようにしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の清掃は、それぞれの分担が決まっており、入居者が率先して、その場所をきれいにして下さったり、お庭の花のお世話を下さるなど、入居者の望まれることをやっていたい		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものや、入居者の欲しいものがあるときなどに、一緒に出掛け、ご本人用の財布から、所持金を確認していただきながら、買い物ができるように援助している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の降っていない日には、体調の良い方をお誘いし、近くの公園まで散歩に出掛けたり、月に1度は、遠出をして外食をするなど可能な限り、戸外へ出るようにしている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者のご要望で動物の居る公園や、季節の花畑の散策などに出掛けたり、ドライブで入居者のゆかりのあるところへ出向いたりしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望のあるときには、事務所の電話を何時でもかけられるようにしており、かかってきた電話にもご本人が出られるようにしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会や外出・外泊に制限を設けず、いつでも馴染みの方が尋ねて来られるようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないために、入居者の望んでいること、不安に感じていることは何か？を考え、不穏のない生活を送ることができるよう支援している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中馴染みの方の来訪を妨げず、出入りを自由にするために鍵をかけていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の居る所から、入居者の動きや足音が感じられる様なところに居て、業務をしているときも、個々の入居者の所在を把握できるよう配慮している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	彫刻刀を使った切り絵を趣味とされている方などは、居室での使用にあたり、ご自身で刃物などの管理をお任せしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火管理や救急法の講習会を受講し、ホーム内研修において職員の勉強会をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防火管理や救急法の講習会を受講し、ホーム内研修において職員の勉強会をしており、救急法の手順を職員が確認できる場所に掲示している		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害についてのマニュアルを職員が周知し、消防計画に基づき防災・避難訓練を行なっている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時はもちろん状態の変化に合わせて、主治医に相談をすると共に、ご家族に報告し、対応について話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の検温・血圧測定と食欲不振時や入浴時の身体チェック等にて状態の把握を行い、早期に異変を察知するようにし、職員間で情報を共有し、主治医及びご家族に報告・相談をするようにしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとに服用している薬の効能書きをファイルしており、効果や副作用などの情報を得られるようにしており、薬の変更があった際には新しく加わった薬の情報を職員に伝えている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	可能な限り、加工品を使わず、食物繊維の摂取を重視しており、水分量のチェックにより、運動と食事で排便を促すようにしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時・毎食後・入床前に口腔ケアを実施しており、定期的な訪問による歯科医によるチェックを受けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、好みを理解した上での水分の提供をしており、食事量、水分量を記録している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに準じて、流行時期の前に再度、勉強会を行なっている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日消毒を行ない、食器は毎食後乾燥機を使用している 食材は短期間で使いきれないように購入し、賞味期限を重視している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉を設けず、いつでも誰でも立ち寄りやすいように玄関先に季節の花の鉢植えを置いて、明るい雰囲気作りを心掛けている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁に外出した時やお誕生会、その他のレクリエーションの思い出の写真を飾ったり、入居者の作品を飾って、心地よい空間作りを心掛けている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間に境を設けず、フローリングから畳に変わることで変化をつけ、居間ではソファに腰掛けてテレビをご覧になる方、食堂では食卓の椅子に腰掛けて歓談される方など、自由に過されている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人の馴染みのものを好みの配置に置き、落ち着いた生活が出来るように配慮している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有部分においては、入居者の体感に合わせた温度に気をつけており、各居室にはそれぞれ、エアコンがあり、個人の好みに合わせた温度を保てるようにしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の居る所から、入居者の動きや足音を感じられる様なところに居て、業務をしているときも、個々の入居者の所在を把握できるので過度な介護をせずに、見守ることで自立支援をしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	むやみに声掛けするのではなく、見守りの中で必要なときのみ声掛けを心掛けることにより、入居者が自分で考えながら、行動する力を無くさないように配慮している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に入居者一人一人の名札をつけた鉢植えを置き、季節の花を楽しんだり、庭先のベンチに腰掛けて皆で歌を唄ったりしている		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

精神科医のすすめで朝の散歩をするようにしたところ、入居者様の表情が穏やかになり、不穏行動のあった方も落ち着きはじめています。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム すみれの家
(ユニット名)	どんぐり
所在地 (県・市町村名)	大和市深見台 1 - 10 - 15
記入者名 (管理者)	山内 史美
記入日	平成 19年 7月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>スタッフには運営理念の意義・役割を深く理解した介護の実践を行えるように、新人研修や日常の会議や朝礼などでも話し合い、共有している</p>	<p>これまで以上に入居者様それぞれの家庭とは？、その人らしさとは？を考え、話し合いながら、介護を実践していきます</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議により、入居者ご家族、地域自治会員、地域包括支援センター相談員、民生委員、市の職員などと話し合いをし、理解を深めている</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>門扉をつけず、自由に敷地内に入れるようにしており、散歩の際もご近所の方と挨拶を交わすなど、顔なじみの方も増えている</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会員として、広報を配布していただいたり、自治会主催の盆踊りなどの行事にも参加させていただいています</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	勤務中にはもちろん、勤務外でも高齢者の方がお困りの様子のときには積極的にお声掛けをし、援助することを心掛けている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価・外部評価は、自分たちがより良い介護を行うための意識作りであり、評価結果について考え、実践していくためのものであることを職員が理解している		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	ホームとして、介護者として悩んでいることや、困っていることを議題とし、皆様の意見や知識をいただき、日々の運営に役立てている		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	困ったことやわからない事などは大和市職員に相談をし、また、入居状況などの把握もしていただいている		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	入居者やご家族からの相談を受け、必要に応じて地域包括支援センターや社会福祉協議会などのパイプとなれるように努めている		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	外部研修をもとに、虐待とは？ どういうことが虐待か？ などを考え、また、虐待のない介護を実践していくためにはどうすればよいかを話し合っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書を読み合わせ、不明な点は質問を受け、納得が得られてから契約を行っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情申し立て機関を掲載して、ご意見をいただけるようにし、ご意見や苦情があったときにはどうするべきかを考え、その後の介護に生かすようにしている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、近況を伝える手紙と出納帳を送付したり、すみれ便りを発行し活動内容を報告している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情申し立て機関を掲載して、ご意見をいただけるようにし、ご意見や苦情があったときにはどうするべきかを考え、その後の介護に生かすようにしている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼やカンファレンス等で意見を述べる機会をつくり、運営者への報告と回答を受け、スタッフに伝えている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>認知症が悪化したために見守りや介助に人手が必要であるときなどに、勤務者を増やすなどの対応をするために職員の協力を得ている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が離職の際は、新しい職員の入職と退職の時期を重複させるなどし、入居者に急激な変化によるストレスのないように気をつけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人のグループホームにおいての研修や新人研修、スキルアップのための研修などは、情報を公開し、勤務の調整なども行い、受講を勧めている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人下にある他市のグループホームの管理者との月1回の連絡会があり、事例検討などの勉強会や職員の交換研修なども行っている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	朝礼やカンファレンス等で自由に意見を述べる機会をつくったり、レクレーションを行う際には、入居者はもちろん、職員も楽しめるものを行うように皆で工夫している		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ホームの情報や問題点を把握し、適切な指導・助言をしており、また、研修などの参加を奨励している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決める際に、これまでの生活歴を記載していただいた用紙をもとにご本人の希望や不安をお聞きするようにし、出来る限りご希望をかなえられる様にしている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望された時から、ご家族の要望や不安について話し合いを持ち、入居後も情報をお伝えし、相談しながら対応策を決めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報や入居後の新しい情報について、スタッフと共有し、常に話し合い、対応している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が面談に出向き、その後、ホームにお出でいただき、ホームの雰囲気を感じていただきながら、顔見知りの程度でも馴染みの関係を作れるようにしてから、入居していただくようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度や片付け、掃除など出来ることを一緒にやっていたり、裁縫などを得意とされている方をお願いしたり、昔話を聞いて歴史を学ばせていただくなど、人生の師としての尊敬をいつも感じている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の変化については、体調や心の変化など、良いことも悪いことも、ご家族にお伝えするとともに、対応についても相談し、決定するようにしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者との毎日の会話の中で、その時の寂しさや、ご家族に会いたい、帰りたい気持ちを察知して、ご家族にお伝えし、協力をお願いしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊に制限を設けず、いつでも馴染みの方が尋ねて来られるようにしている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自立している方が、介護を必要とされている方の食事の準備や片付けの手伝いをしたり、レクリエーションも出来る方が出来ない方の援助をされている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、可能であれば、ご家族やご本人とお会いしたり、施設の担当者に近況をお聞きしている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と入居者が1対1で関わることで、今何がしたいのか？悩んでいるのはどんなことかなどを傾聴する時間を作り、問題点について話し合い、解決できるようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や入居後の新しい情報について、スタッフと共有し、常に話し合い、対応している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	活動的な方とそうでない方など、一人一人が違う一人であることを常に頭で考え、個々の個性を大切にしながら、支援している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画の作成にあたっては、ご本人にお話を聞いたうえで、ご家族とスタッフと相談しながら、いろいろな視点で方向性を考えて作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝の朝礼やカンファレンスにおいて、入居者の変化を把握し、早急にご家族に報告するとともに、計画の見直しを話し合っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的な項目と特別な出来事の項目を分け、変化を把握しやすくし、特に注意する事柄は、特記事項に記載することで、問題点を見つけ、早急な対応を出来るようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームにおいて、生活が難しくなった方や、他施設への移動の希望があった時には、同法人化にある施設を紹介したり、近隣の施設の情報を収集したりして、可能な限り、ご希望に添えるように支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回程度の行事ごとにボランティアの参加があり、警察・消防にも情報を提供している		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居後も担当であった居宅ケアマネと連絡をとり、入居前の情報をお聞きするなど、協力をいただいている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者の抱えている問題がホームで対応できないような事例である場合などは、地域包括支援センターに相談することとしている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診はもちろんのこと、緊急時には早急な診察や、電話による指示による対応など、入居者を理解した関係を築いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回同法人下の精神科医による往診を受け、認知症による個々の問題点や心の変化について相談し、必要に応じた治療を受けられる		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の体調変化については、ホームドクターのクリニックの看護師との連携と、法人内の訪問看護師とも24時間の連携を結んでいる		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時には、早急に担当医師と連絡を取り、説明を受け、体調変化があるときには、その都度、退院や治療の説明を受けるなど、連携を持つようになっている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の説明の際に、重度化し共同生活が出来なくなった時の対応についての話し合いをしている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時及び認知症の進行状況や体調変化の現れた時には、その都度、ご家族や担当医師に報告し、話し合いをするようになっている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	個人情報であるため、ご本人とご家族の求めがあるときは、転居先に対し細かい情報をお伝えするようになっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録は記載時意外は事務所に保管し、声かけや対応については朝礼などで常時気をつける点として、職員に意識付けしている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>傾聴を基本とし、1対1の話し合いの出来る時間を可能な限りつくり、入居者のニーズに応えられるように支援している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務優先になりがちな時には、外出や散歩など…まずは入居者とコミュニケーションをもつ時間を優先することで職員の忘れがちなことを思い出す機会を作っている</p>	<p>朝礼後、まず散歩から… 散歩して朝の空気に触れることで入居者も職員もリフレッシュして1日元気に過しています</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容師が2ヶ月に1回訪問して一人一人の要望に応えた整髪をしてきており、また、別にお気に入りの美容院や理容室のある方はそちらで整髪できるように支援している</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>もやしの芽とりや野菜の皮むきなど、出来る方にはお手伝いをお願いし、片付け上手な方には片づけをなどと自然に役割ができています</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好については個人の好みを重視し、甘いものが苦手な方、好きな方など、職員が把握し、対応している</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録により排泄パターンを把握し、排泄を出来る限り、トイレで出来るように支援し、ご本人にもトイレですることの気持ち良さを認識していただけるように支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を苦手としている方には、時間を変えたり、入浴剤を好みのものにしたたり、好みのタオルや着替えを用意するなどの工夫をして声掛けをし、決して無理強いをしないようにしている		他施設などの事例なども検討し、入浴を嫌がる時の状況を見極め、定期的に入浴が出来、清潔が保てるようにしていきたい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の過したい場所でゆっくり過ごしていただくようにし、必要以上に居室を覗いたり、むやみに声掛けをしないようにしている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の清掃は、それぞれの分担が決まっており、入居者自ら、その場所をきれいにしておさったり、起床時カーテンを開ける方、ベランダの花のお世話をしておさるなど、入居者の望まれることをやっていたりしている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものや、入居者の欲しいものがあるときなどに、一緒に出掛け、ご本人用の財布から、所持金を確認していただきながら、買い物ができるように援助している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の降っていない日には、体調の良い方をお誘いし、近くの公園まで散歩に出掛けたり、月に1度は、遠出をして外食をするなど可能な限り、戸外へ出るようにしている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者のご要望で動物の居る公園や、季節の花畑の散策などに出掛けたり、ドライブで入居者のゆかりのあるところへ出向いたりしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望のあるときには、事務所の電話を何時でもかけられるようにしており、かかってきた電話にもご本人が出られるようにしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会や外出・外泊に制限を設けず、いつでも馴染みの方が尋ねて来られるようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないために、入居者の望んでいること、不安に感じていることは何か？を考え、不穏のない生活を送ることができるよう支援している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中馴染みの方の来訪を妨げず、出入りを自由にするために鍵をかけていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の居る所から、入居者の動きや足音が感じられる様なところに居て、業務をしているときも、個々の入居者の所在を把握できるよう配慮している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫がお好きな方などは、居室での使用にあたり、ご自身で針などの管理をお任せして、定期的に本数の確認をしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火管理や救急法の講習会を受講し、ホーム内研修において職員の勉強会をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防火管理や救急法の講習会を受講し、ホーム内研修において職員の勉強会をしており、救急法の手順を職員が確認できる場所に掲示している		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害についてのマニュアルを職員が周知し、消防計画に基づき防災・避難訓練を行なっている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時はもちろん状態の変化に合わせて、主治医に相談をすると共に、ご家族に報告し、対応について話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の検温・血圧測定と食欲不振時や入浴時の身体チェック等にて状態の把握を行い、早期に異変を察知するようにし、職員間で情報を共有し、主治医及びご家族に報告・相談をするようにしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとに服用している薬の效能書きをファイルしており、効果や副作用などの情報を得られるようにしており、薬の変更があった際には新しく加わった薬の情報を職員に伝えている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	可能な限り、加工品を使わず、食物繊維の摂取を重視しており、水分量のチェックにより、運動と食事で排便を促すようにしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時・毎食後・入床前に口腔ケアを実施しており、定期的な訪問による歯科医によるチェックを受けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、好みを理解した上での水分の提供をしており、食事量、水分量を記録している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに準じて、流行時期の前に再度、勉強会を行なっている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日消毒を行ない、食器は毎食後乾燥機を使用している 食材は短期間で使いきれないように購入し、賞味期限を重視している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉を設けず、いつでも誰でも立ち寄りやすいように玄関先に季節の花の鉢植えを置いて、明るい雰囲気作りを心掛けている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁に外出した時やお誕生会、その他のレクリエーションの思い出の写真を飾ったり、入居者の作品を飾って、心地よい空間作りを心掛けている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間に境を設けず、フローリングから畳に変わることで変化をつけ、居間ではソファに腰掛けてテレビをご覧になる方、食堂では食卓の椅子に腰掛けて歓談される方など、自由に過されている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人の馴染みのものを好みの配置に置き、落ち着いた生活が出来るように配慮している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有部分においては、入居者の体感に合わせた温度に気をつけており、各居室にはそれぞれ、エアコンがあり、個人の好みに合わせた温度を保てるようにしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の居る所から、入居者の動きや足音を感じられる様なところに居て、業務をしているときも、個々の入居者の所在を把握できるので過度な介護をせずに、見守ることで自立支援をしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	むやみに声掛けするのではなく、見守りの中で必要なときのみ声掛けを心掛けることにより、入居者が自分で考えながら、行動する力を無くさないように配慮している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに鉢植えを置き、季節の花を楽しんだり、庭先のベンチに腰掛けて皆で歌を唄ったりしている		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

精神科医のすすめで朝の散歩をするようにしたところ、入居者様の表情が穏やかになり、不穏行動のあった方も落ち着きはじめています。